

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は、2024年度日本陸上競技連盟競技規則及び本競技注意事項により実施する。

2. 練習について

(1) 補助競技場及びバックスタンド下の雨天走路において、その日に競技が行われる種目の練習を審判員の指示に従い、安全に留意して行うこと。ピストルの使用は禁止する。雨天走路に関しては、第2ゲート（200mスタート）から第3ゲート（1500mスタート）方向へ走行すること。

(2) 練習は次の通りとする。なお、練習エリアについての掲示、競技役員への指示に従うこと。

会場/日	10月4日（金）	10月5日（土）	10月6日（日）
主競技場	9:00～11:00	7:00～8:30	7:00～8:30
補助競技場	9:00～18:00	7:00～18:00	7:00～15:00

(3) 主競技場での投てき及び跳躍競技の練習については、競技役員への指示のもとで行うこと。ハンマー投以外の投てき種目の練習については、補助競技場において、審判員の指示に従い行うこと。

(4) 主競技場および練習会場には、競技者・チームスタッフ・競技役員以外は立ち入らないこと。

3. 招集について

(1) 招集所は、第3ゲート付近に設ける。ただし、棒高跳とハンマー投は現地で行う。

(2) 招集所は当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。

(3) 招集開始及び完了時刻は競技時刻を基準とし下記の通りとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック種目	30分前	20分前
フィールド種目	50分前	40分前（混成競技フィールドは30分前）
棒高跳（現地招集）	30分前	20分前

(4) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。

(5) 招集の手順

① 招集開始時刻には招集所で待機し、競技者係の確認を受ける。その際、アスリートビブス・スパイク・商標の点検を受ける。アスリートビブスは胸及び背中に確実に付けること。ただし、跳躍競技に関しては、胸または背中のいずれか1枚つけるだけでも良い。

② 3000m以上の種目では別アスリートビブス（シール式）を使用する。招集所で受け取ること。

③ トラック種目は腰ナンバー標識（シール式）を受け取る。

④ 混成競技の招集は第1日目・第2日目とも、第1種目は招集所にて競技者係が行うが、それ以降は混成競技控え室（十種：第2南トレーニングルーム、七種：第2北トレーニングルーム）で行う。点呼・確認後、各競技場所に誘導し、担当審判員に引き継ぐ。

十種競技の棒高跳は競技開始1時間前から現地で練習可とし、招集は競技開始30分前に現地で行う。

- (6) 代理人による点呼は原則として認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻までに「2種目同時出場届」を招集所に提出すること。2種目同時出場届を提出した場合も、必ず本人または代理人が招集を受けなければならない。
- (7) 携帯電話、CD等、競技規則第144条3(b)に関わる機器を競技場内には持ち込めない。
- (8) 学連登録時の氏名とナンバーカードがプログラム上のそれと異なり、主催者側に過失が認められない場合は、競技に出場できないことがある。
- (9) リレー競技に出場するチームは、招集完了時刻の1時間前までに受付及び招集所に用意してあるオーダー用紙にメンバーを記入し、招集所に2部提出すること。
- (10) リレーチームの編成は一度申告したら、招集完了時刻までに主催者が任命した医師の判断がない限り変更は認められない。
- (11) リレーに出場する場合、各チーム同一のユニフォームで参加しなければならない。
- (12) 2種目同時出場届・欠場届・リレーのオーダー用紙は受付及び招集所で配布する。

4. 欠場について

- (1) 欠場については、大会の権威と運営の円滑化のため極力避けること。
- (2) やむを得ず棄権する場合は、「欠場届」に監督・コーチがサインの上、招集開始時刻までに招集所に提出すること。
- (3) 無断で欠場した場合、その競技者は以降の出場を認めない。

5. 競技について

(トラック競技)

- (1) 短距離走では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (2) 5000mを超える競技では、主催者の判断でホームストレートに給水所を設ける場合がある。
- (3) 男子5000mは20分、男子10000mは40分、男女10000mWは、70分を超えて次の周回に入れない場合がある。
- (4) トラック競技における腰ナンバー標識（4×100mRはアンカーのみ、また4×400mRは2走以降全員腰ナンバーと、胸部にレーンナンバー標識を着用する）は、競技者係で受け取ること。
- (5) 5000m、10000m及び10000mWにおいては、周回の確認のため、トランスポーター付きの腰ナンバー標識を使用する。トランスポーター付きの腰ナンバー標識は左腰につけ、通常の腰ナンバー標識は右腰につける。
- (6) トラック競技では大型スクリーンを用いた「ライブリザルト」による結果発表を行うことがあるが、「判定中」の途中経過を示しているもので、「正式結果」でないことに注意すること。

(フィールド競技)

(1) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は優勝が決まるまでは次の表の通りとする。

	練習	1	2	3	4	以降
男子走高跳	1m70	1m65	1m70	1m75	1m80	+3 cm
	1m90	1m85	1m90	1m95	2m00	+3 cm
男子棒高跳	4m00	3m80	4m00	4m20	4m40	+10 cm
女子走高跳	1m40	1m35	1m40	1m45	1m50	+3 cm
女子棒高跳	2m40	2m20	2m40	2m60	2m80	+10 cm
十種走高跳	1m55	1m50	1m55	1m60	1m65	+3 cm
	1m70	1m65	1m70	1m75	1m80	+3 cm
十種棒高跳	2m80	2m60	2m80	3m00	3m20	+10 cm
七種棒高跳	2m40	2m20	2m40	2m60	2m80	+10 cm

(2) 悪天候などの不測の事態が発生した場合は、審判長・学連ヘッドコーチの協議により設定の高さを変更する場合がある。

(3) 棒高跳の支柱移動については競技開始前に跳躍場で競技役員に申請すること。

(4) 男子走幅跳で計測ラインを設けることがある。

(5) 三段跳の踏切板の距離は砂場から男子が 13m または 11m、女子が 10m または 8m とする。

(6) 男女円盤投・男女ハンマー投・男女やり投については計測ラインを設ける。計測ラインは、男子円盤投 35m、女子円盤投 30m、男子ハンマー投 45m、女子ハンマー投 40m、男子やり投 55m、女子やり投 35m とする。計測ラインを超えた試技はすべて計測し、超えない試技はペグ方式で 2 投目終了後に計測する。3 投目以降の試技はすべて計測を行う。男女砲丸投は全投計測を行う。

(7) 競技者が使用するマーカー(跳躍競技、やり投)は主催者が用意したものをうい、それ以外のものは使用できない。跳躍競技、やり投ではマークを 2 か所まで置くことができる。

(9) 公式練習は 2 回とする。ただし、審判員主任が時間を考慮した上で変更する場合がある。

(10) 練習用としても個人の用器具を競技場内に持ち込んではいならない。

(11) 競技場内での練習は競技役員の指示に従うこと。投擲練習は、公式練習以外は投擲物(靴などの物品を含む)を持っての全ての練習を禁止する。

(12) フィールド種目に対応したコーチングボックスをスタンド席に設ける。

6. 抗議について

(1) 競技の結果または競技実施に関する抗議は抗議に関連する種目の同じラウンドで競技している競技者またはチームに限りすることができる。競技規則 146 条に従って定められた時間内に、競技者自身またはチームを公式に代表する者が審判長(本部席の担当総務員に申し出る)に対して口頭で行い、指定された控室で待機する。

(2) さらにこの裁定に不服の場合は預託金(1万円)を添え、担当総務員を通じて Jury に文書で申し出る。抗議申立書は受付で配布する。

7. 競技用器具について

競技に使用する用器具は棒高跳用ポール以外、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。

8. 表彰について

(1) 各種目 1 位～3 位までに入賞した競技者は表彰を行う。競技終了後、玄関ロビーの表彰者控所に集合すること。表彰の際は、上は所属ユニフォーム下は所属ジャージを着用すること。

(3) 男子最優秀選手賞（高本賞），女子最優秀選手賞（久保田賞）をそれぞれ 1 名、最終日競技終了後に授与する。

9. 一般的注意

(1) 本大会の医務活動は、医務室において応急処置のみ行う。競技中の負傷については医務員が応急処置を行うがその後の処置は各校で行うこと。

(2) 緊急事態発生の際には、審判長や医務室の判断により競技を中止させることがある。

(3) 更衣は、メインスタンド下の更衣室を利用することができる（会場案内図参照）。ただし、貴重品は各自で保管すること。紛失、盗難に関して主催者側は一切の責任を負わない。

(4) 大会期間中に主催者に届けられた物品（遺失物）については、一時的に受付にて保管する。

(5) 競技結果・番組編成についての印刷物掲示は行わず、本連盟の SNS にアップする。

(6) 記録証の交付を希望する競技者は、受付に記録証交付願及び交付料金 300 円を添えて申し込むこと。

(7) 競技場は常に清潔保持に努め、ゴミ等は各自で必ず持ち帰り処分すること。

(8) 横断幕、のぼり等の設置は、バックスタンドの中段以降とし、競技進行の支障にならないように配慮すること。競技役員に指摘された場合は、その指示に従うこと。

(9) スタンド及びスタンド裏においての場所取りは禁止とする。

(10) 競技場内へは出場する競技者以外立ち入らないこと。

(11) 主催者の許可なく競技場内・スタンドの電源を使用することを禁止する。

(12) 大会期間中の写真・ビデオの撮影は、コーチングボックス付近以外では全面禁止とする。競技者への支援に活用するものに限定する。大会の動画や映像・写真については、主催者の許可なく第三者がこれを使用することを禁止する。（SNS 等によって動画や映像を配信する行為も含む）

(13) その他不明な点は、受付に問い合わせること。受付は、メインスタンド正面ロビーに設置する。

(14) 各大学での控え場所においても、それぞれ独自に手洗い・うがい・消毒等の防疫措置を行うこと。特に三密回避を行っていない団体に対しては、退場を指示する場合がある。

(15) 競技場開場及び閉場時刻

第 1 日 10 月 4 日(金) 開場：9:30 閉場：19:00

第 2 日 10 月 5 日(土) 開場：7:30 閉場：19:00

第 3 日 10 月 6 日(日) 開場：7:30 閉場：16:00

10. その他

日本陸上競技連盟は、広告規定を定め、競技中のユニフォームの企業商標などについて様々な禁止事項を定めている。次の web ページの内容を確認すること。競技者は大きな商標等のついた着衣を競技エリア内で使用すること避けること。

